



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2017年5・6月
第316号

病院だより第316号 (2017年5・6月号)
 発行者 昭和大学藤が丘病院
 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
 発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
 編集責任者 広報委員長 原田 浩史
 〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
 TEL 045-971-1151

患者サポートセンターのご案内

患者サポートセンター 看護師長 斎藤 佳織

藤が丘病院・リハビリテーション病院「患者サポートセンター」は、平成29年4月に「医療連携推進室」と「患者サポートセンター」が統合され、一つの部門として立ち上がりました。佐々木副病院長がセンター長を努め、多職種が協力し地域関係機関との連携を担い、包括的な相談支援を行うことを目標に総勢24名で構成され、以下の業務を行っております。



地域医療連携担当は、患者さんの状態に合わせた病院や紹介元のかかりつけ医等へ逆紹介をしています。また、地域医療機関との連携強化による懇親会を兼ねた「藤が丘地域フォーラム」の企画・運営をする傍ら、連携医療機関への訪問活動など、地域医療機関を結ぶ太いパイプ役として活躍しています。さらに、地域の医療機関からの紹介初診予約の受付、返書管理など外来・入院患者さんの多岐に渡る書類を全て管理しています。

入退院調整担当・医療福祉相談担当は、MSW、退院調整看護師が外来・病棟の主治医や看護師と協働しながら療養先の退院支援をしています。MSWは退院支援の他、虐待、特定妊婦、身寄りのない患者さんの社会的・経済的・心理的問題に直面している患者家族に寄り添い関連する地域行政機関との連携を図っています。

入院受付、入院前オリエンテーション、検査説明窓口は、入院前から全診療科の予定・緊急入院患者さんを対象に入院オリエンテーションを行っています。また、この窓口では、がん相談を設け、緩和ケア認定看護師とMSWが対応しています。2人に1人はがんになる時代、これから益々相談件数は増加することが予測されます。

ベットコントロール担当は、毎日の病床状況及び入院予約状況を把握し、病棟師長、医師と連携して患者

さんの円滑な入院の調整を図っているほか、地域連携室からの緊急入院要請にも迅速に対応しています。特にリハビリ病棟のベットコントロールは医事課の協力を得ながら対応しています。

患者サポートセンターは多職種で構成され役割業務に違いはありますが、共通していることは、患者さんの外来から入院を通して、安全で安心な医療を提供することを第一に考えていることです。「顔の見える関係」を大切にし、病診・病病連携はもとより、医療と介護の連携にも積極的に取り組んでまいります。何かお困りなことがあればいつでも対応致します。ほんの少し、患者さん、ご家族の力になれるよう日々頑張ります。



新入職員挨拶

研修医 大城 剛志

皆様、初めまして。この4月から藤が丘病院で研修させていただいている研修医の大城剛志と申します。

臨床実習の時、私の質問にも熱心に答えていただき、また、検査や患者診察にも同行させていただいたり、机上では得ることのできない多くのことを経験しました。また、研修医も自らの能力を上げるべく日々勉強と臨床に精進している姿を垣間見ました。このようなことから、藤が丘病院は「教育」に関してこの上なく熱心な病院との思いが強くなり、私もこの病院で先生方にもっと色々教えていただきたい。もっと患者さんを診たい。熱心な同期と教えあいたい。そう思うようになり、今、藤が丘病院で研修させていただいております。

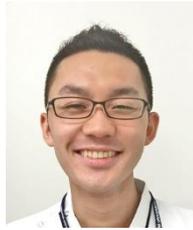
これからも日々の勉強と臨床に励み、患者さんから「先生の顔をみたら元気になった」と言っていただけのような医師を目指します。至らない点が多いと思いますが今後ともよろしく願いいたします。



藤が丘病院に入職して

藤が丘病院8階西病棟看護師 森 瑛

初めまして。今年4月から昭和大学藤が丘病院8階西病棟に配属された、新人看護師の森と申します。8階西病棟は特に肺がんなどの呼吸器疾患をお持ちの患者さんが多い病棟です。そのため治療の他、慢性期、終末期とそれぞれの病期に合わせたケアを行っております。



配属されてからは先輩看護師と共にケアを行い、また研修で学んだ技術や知識を病棟でも実践し、評価してもらいながら経験を重ねています。しかし慣れない業務や新しい環境に戸惑うことも多々あります。そのような中で、先輩方が患者さんにいかに苦痛なくケアできるかを考え判断している姿や、信頼関係を構築している姿を見ました。自分も寄り添った看護をし、少しでも患者さんが良かったと思える時間が多くなる関わりができる看護師になりたいと考えました。そのためにも先輩方から教わり、経験を重ね、チームで協力して看護を提供出来るよう努力していきたいと思っております。

薬剤師レジデントとしての抱負

藤が丘病院薬局レジデント 鈴木 麻里子

本年度より昭和大学藤が丘病院でレジデントをさせていただくことになりました。配属されてまだ2か月ですが、周囲の薬剤師、医師、看護師などのスタッフに支えられて学ぶことの多い毎日を過ごしています。



藤が丘病院の薬剤師レジデントは4月に配属されすぐに病棟薬剤師としての仕事を学び始めます。実際に患者さんと接することで、病態や治療のこと、何より医療人としての姿勢について多くを学んでいます。

現在、医療界では病棟薬剤師がチーム医療の中で役割を発揮することが求められています。また、病棟薬剤業務での薬剤管理は患者さんのQOLに直結するものとして重要です。そんな中、私はまだ病棟薬剤師として未熟で、はるか遠くを走り続ける先輩薬剤師の背中を毎日懸命に追っています。

今後、薬剤師レジデントの1年間を通じて、チーム医療の一員として、病棟薬剤師として地域医療に貢献できるように精進していきたいと思っております。

配属から1か月を経て

藤が丘病院管理課 富田 夢美

5月1日付で管理課人事係に配属となり、早1ヶ月が経ちました。新人研修で訪れることもなかった職場への配属だったため、始めは不安なことばかりでした。知識もなく分からないことだらけでしたが、先輩方から丁寧に教えていただくことにより、職場にも業務にも少しずつ慣れていくことができました。ここでの業務は、医師や看護師、コメディカルの方々、事務員といった様々な職種や年齢の方と接することがとても多いので、緊張感を持ちつつ業務に臨む毎日です。学んだ業務以上にまだまだ分からないことの方が多いですが、少しずつ成長していけるように精一杯努めていきたいと思っております。これからも、ご指導の程よろしくお願ひ致します。



患者さんにとってよりスムーズな事務手続きを心掛けて

リハビリテーション病院管理課 山村 勇一

まずは藤が丘リハビリテーション病院管理課の現在の組織再編について簡単に紹介させていただきます。平成20年藤が丘病院との組織統合がなされ、院内の各委員会のほとんどが藤が丘病院との合同開催とするなど、一体化による業務の効率化が推進されました。その後、平成25年大学全体での組織変更がなされ、管理課と医事課が統合され管理課となりその中に管理係と医事係が設置されました。また、平成27年昭和大学スポーツ運動科学研究所が開設され、管理課に研究所事務室が新設されました。

現在の構成員数は管理課全体では10名でその内、医事係が8名(専任7、兼任1)となっています。医事係での主な業務は受付業務と予約業務、会計業務になります。当院の入院患者さんは眼科以外ではほとんど



が藤が丘病院や他院から転院される方のため、日頃から藤が丘病院とは綿密な連絡をとりあい、患者さんにとってよりスムーズな事務手続きができるよう、正確かつ迅速な対応を心掛け業務に取り組んでおります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

集中治療センター

藤が丘病院集中治療センター
看護係長 南部 恭子

集中治療センターは、手術後の患者さん、一般病棟で状態が悪くなった重症患者さんを受け入れ、人工呼吸器、血液浄化装置など生命維持装置や生理機能情報監視装置など高度な医療機器を使用して、集中治療を行っています。

また心臓カテーテル検査室と隣接し、急性心筋梗塞をはじめとする循環器救急の患者さんの治療を行っています。

病棟は14床あり、看護師は44名在籍しています。特定の診療科のみで診療を行っているのではなく、多くの科が協力し合い治療に参加しています。医師、看護師のみならず、臨床工学技士、薬剤師、理学療法士、ヘルパー、医療事務など多職種や褥瘡ケアチーム、栄養サポートチーム、口腔ケアチームなど専門チームとも連携し1日でも早く患者さんが回復できるようにチーム医療を提供しております。



第22回 藤が丘地域連携フォーラムを開催して

4月13日(木)藤が丘病院にて第22回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。平成23年9月から始まった藤が丘地域連携フォーラムも今回で22回目を迎えました。

今回も地域医療機関の先生方など76施設135名、

昭和大学藤が丘病院関係者129名の合計264名の方々にご参加いただきました。

今回は、リハビリテーション病院リハビリテーション科川手信行准教授より「リハビリテーションの実際」をご講演いただいた後、リハビリテーション病院紹介ビデオの上映を行いました。講演会、ビデオ上演に引き続き、立食形式での懇親会を開催しました。各テーブルとも、とても賑やかに会話が弾んでいました。ご参加いただきました皆様方には感謝申し上げます。

なお、次回、第23回地域連携フォーラムは、平成29年7月13日(木)に開催を予定しておりますので、多数のご参加を心よりお待ちしております。



(医療推進課医療連携係 石井 理)

5月12日(金)の看護の日を終えて 昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院 看護部 川野留美子・近藤恵美子

フローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ制定された5月12日「看護の日」に、藤が丘病院・リハビリテーション病院の代表メンバーが集まり、総勢12名で記念品の配布、看護相談を行いました。

当日、玄関前では、代表メンバーの笑顔や元気の良い挨拶で、看護部が大切にしている「患者にやさしいハートフルな看護」を記念品と共に、患者さんやご家族の方々にお渡しすることができました。

また、神奈川県がん診療連携指定病院の役割を強化するためにも、今年新たに「看護相談」を設け、がん



相談を中心に対応させていただきました。今後もがんを抱える患者さんやご家族、地域の方々のニーズに応えていきたいと考えております。

新審査を受審しました。今後も医療の質と安全の向上に向けてより一層の努力を続けて参ります。

(藤が丘病院管理課 山口 詩織)

病院機能評価 更新認定について

藤が丘病院は、平成 29 年 5 月 12 日付で病院機能評価「機能種別版評価 3rdG : Ver.1.1」の更新認定証を受領しました。

病院機能評価とは、公益財団法人 日本医療機能評価機構による医療機関を対象にした第三者評価で

す。医療の質と安全の向上を目的として、「患者中心の医療の推進」、「良質な医療の実践1」、「良質な医療の実践2」、「理念達成に向けた組織運営」の4つの評価対象領域からなる評価項目で評価が行われます。一定の評価基準に基づき中立的・客観的立場で総合的に評価し、認定された医療機関に対しては認定証が発行されます。

藤が丘病院は平成 23 年 6 月 3 日に初回認定を受け、5 年後となる平成 29 年 1 月 31 日、2 月 1 日に更



世界トライアスロンシリーズ 横浜大会にメディカルチームとして参加しました

5 月 13 日(土)、14 日(日)に横浜山下公園周辺で開催された世界トライアスロン横浜大会にメディカルチームの一員として参加してきました。昭和大学からは、北部病院・藤が丘病院合わせて約 30 名が参加し、各所に分かれて選手の応急処置、救急搬送などに従事しました。実際にトリアージや医療的処置など院外で行うというのは初めてで緊張もありましたが、とても貴重な経験をすることが出来ました。

両日ともにあまり気候には恵まれませんでした。スタッフ全員がチームワークを発揮し、大きな事故なく終えることが出来ました。



(藤が丘病院6階東病棟看護師 秋田 祐希)

診療統計 2017年4月・5月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2017年4月	2017年5月	2017年4月	2017年5月
外来患者数	27,006人 (1,125.3人)	27,220人 (1,134.2人)	3,720人 (155.0人)	3,929人 (163.7人)
入院患者数	15,269人 (509.0人)	15,684人 (506.0人)	5,127人 (170.9人)	5,031人 (162.3人)
紹介率	83.6%	84.2%	60.5%	62.7%
逆紹介率	65.0%	60.5%	46.0%	79.8%

《広報委員会委員》

原田 浩史	池田 裕一	佐々木春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
芳賀 ひろみ	辻本 さなえ	猪股 里美	岩城 馨	鈴木 絢子	下田 遥菜
岩井 譜憲	大塚 凌	高橋 良治	(順不同)		